

# 尚志 苦しみ5連覇

## 学石と接戦 延長で決着

尚志が苦しみながらも学法石川を延長で振り切り、5連覇を達成した。ゴールへの飽くなき執念でインターハイ出場を勝ち取った。

試合は尚志ペース。小野寛之(2年)、佐藤誉晃(3年)の両FWがゴール前に迫り、前後半で計24本のシュートを浴びせた。学法石川の粘り強い守りに阻まれ、ノーゴールで延長戦に突入した。

暑さもあり、両チームとも体力を消耗した試合。延長前、尚志イレブンはベンチ前で円陣を組み、「ウオー」と叫び声を上げて気合を入れて直した。「勝つことだけを考えた」と主

将のDF山城

廉(3年)。

延長前半4分、その山城が期待に応えた。MF佐藤凌輔(2年)のコーナーキックに頭で合わせると、これがペナルティーエリア外からの「ロングヘディングシュート」となり、貴重な決勝点を奪った。

「リーグ戦で成長してきた選手たちだけに、一発勝負のトーナメントへの不安はあった」と打ち明けた仲村浩二監督だが、「苦しい試合をものにしたことをほめてあげたい」と選手をたたえた。インターハイの最高成績は2011(平成23)年の8強。接戦でタフさを身につけた選手たちがベスト8越えを狙う。(富山)

5連覇を達成した  
尚志=十六沼公園  
サッカー場 ▶

